

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

当ブログ「らくだ図書館」は、投稿者の皆様に選ばれ続け、開設20か月を迎えました。

え？

誰も選んじやないって？

いいんです。

誰にも選ばれなくっても、ブログ書きが最大の趣味なので、一人でこっそり続けます。

というわけで、毎月恒例となっている、パブ版の紹介を↓↓↓

らくだ図書館20（8月分）

<http://p.booklog.jp/book/76177>

それにしても、ついに8月が終わり、すっかり秋めいてきましたね。

当初OVLにも参加しようと思っていたのですが、ちょっと計画が変わり、8月に投稿したのは野性時代のみとなりました。

9月はガガガ・ルルル・小学館文庫という、小学館フルコースを予定しているので、ちゃきちゃき投稿したいです。

10月は、SDとHJの予定です。

11月は、いたばし絵本とDHC翻訳。

かなり詰まっていますが、それを乗り越えたら春まで締切りがないので、9月～11月が秋の山。

と、投稿予定をここに書いて、自分の尻を叩く作戦です。

今月も頑張るぞー！

ハイハイ！

自分が落ちても通過発表はチェキラー！

というわけで、ビーンズの2次発表を見てきましたが、ホームページの大幅リニューアルに驚きました。

以前はキラキラのピンク色で、異世界ファンタジーが主流でしたが、ちょっとだけ一般寄りになったイメージでしょうか？

原稿募集のイメージ絵も、従来のビーンズの雰囲気とは、だいぶ違ってきますよね。

ちょ！

これって、もしかして！

主役が男で、現代日本が舞台で、仲間愛がテーマの作品を送ってもいいんですか！？

そうであれば、まさしく自分のメインジャンルなので、投稿できる作品が何本もあるのですが……。

しかし要項には、「ファンタジック」と書いてあるんですよね。

とはいえ、賞の趣旨と無関係なイラストは載せないと思うので、現代舞台のローファンタジーでもOKという理解で、(まだかなり先ですが)送ってみようかなと思います。

ホームページに引き続き、来月以降は刊行作品もリニューアルされるようなので、今後のビーンズ文庫がどんな方向へ行くのか楽しみです。

今の少女系はハイファンタジーが主流なので、それ以外の作品がもっと増えてくれると、読み手としても書き手としても、個人的に嬉しいなあって思います。

月末の某賞へ投稿するために、「400字での作品の狙い」を書いたのですが、とても楽しく書けました。

あらすじ書きが苦手なので、作品の狙いもきつと苦勞するんだろうなあーと思っていたのに、書き始めたら進む進む。

なんかもう、アレですね。

「この作品はこんなテーマを表現したくて書いたんだよ!」、「このキャラはこういう性格だけど、それにはこんな意図があって」等々を語り出したら、リアルに徹夜できそうです。

400字どころか、4,000字書いてもいいですか? くらいの勢い。

作品本体を公開していないのに、その作品について語るのも……と思って、ここではグッと我慢していますが、実は自分の作品について語りた病だったりします。

そんな衝動を、400字の中にギュッと詰め込み、形にしました。(お中元のCM風)

あと、「作品の狙い」というキーワードで来てくださる方が意外と多いので、おこがましいことを承知の上でコツを書いておくと、「何故その作品を書いたか」を言葉にすればいいと思います。

長編小説を1本書いたからには、キャラクターなりストーリーなり、「ここを書きたかった」「ここを是非読んで欲しい」という部分があるはずですよ。

あまり深く考えず、自分だけのそのこだわりを、言葉にすればいいんじゃないかなと。

前回1次落ちの人間が言っても、まったく説得力がないですが、自分はそういう感じで書きました。

とにかく、今回こそは通過して欲しいな、と思います!

8月末が締切りだった、オーバーラップ大賞。

自分は残念ながら投稿できませんでしたが、ひっそりメルマガに登録したら、こんなお知らせが届いていました。

応募総数 543作品

- ・ 1次選考結果発表：10月中旬
- ・ 2次選考結果発表：11月中旬
- ・ 最終選考結果発表（佳作受賞作発表）：12月25日予定

おおっ！

今回は経過発表があるのか！

確か前回のキックオフ回は、いきなり最終発表だったと思いますが、途中経過がわかるのは嬉しいですね。

しかも時期が明言してあって、1次発表が締切りの1か月半後（光速！）で、選評も貰えるというのは魅力的です。

メルマガを見ても、投稿者に対して親切的な印象ですし、次回は参加したいなあと。第2ターンが11月で、第3ターンが2月なので、予定に組み込んでみようと思います。

それにしても、完全なウェブ投稿をしたことがないので、ちょっとドキドキ。

富士見は投稿したことがないし、野性時代は紙で送っているので、オーバーラップが初体験になりそうです。

何だか最近、投稿したい賞が急増しておりますが、ここに書いただけにならないように原稿を頑張ろうと思います！

旅のノンフィクション大賞に、今年も張り切って投稿しました。

公式ホームページ

<http://www.yomiuri-osaka.com/tabinon/index.html>

ちなみに、去年は落選でした。

写真を1枚添付可能と書いてあったので、喜んで画像を貼ったんですが、どうやらそれは高校生部門限定だったようで……。

「コイツ、一般部門なのに写真貼ってるぜ」と思われて、規定違反で落選扱いになったのかもしれませんが。

いえ。

それは単なる被害妄想で、実際のところは、内容で落ちたんだと思いますが。

他にも「ここで紹介したのに結果について触れていない賞」が多数ありますが、そういう賞については、常木らくだは落選したと認めていただいて間違いありません。

とにかく、そういう反省もあり、今年も規定を守りました。

締切りは9月13日と迫っておりますが、800字から応募できてメール投稿も可能なので、素敵な海外旅行の思い出をお持ちの方は、是非参加してみてくださいはいかがでしょうか。

ちなみに自分は、去年に引き続き、中国の話を書きました。

悪いニュースが多い今だからこそ、中国のいい部分や素敵な部分を、たくさんの人達に伝えたいです。

入賞したらHPに掲載されるようなので、結果発表を楽しみに待とうと思います！

本日、えんため2次落ちの評価シートが届きました。

ちょ！

今日発送完了の告知が出て、今日届くって、もしかして速達ですか！？

実際はメール便でしたが、それだけ本気な出版社が存在したら、マジ惚れすることは確実です。

しかし、封筒のサイズがA4なのは、もはやエンターブレインの伝統でしょうか。

A4封筒に評価シートだけを入れて送ってこられると、逆に郵送中にヨレヨレになるから、折り曲げて定型封筒で送ってくれたらいいのに……（本音）

まあ、折っちゃいけないという、親切心の「A4」なのだと思いますが。

そして気になる内容ですが、すべての項目へ華麗にダメ出し。

文章もストーリーもキャラクターも、地味で物足りないというコメントでした。

でも、ダメ出しはツライけれど、指摘の内容はその通りだと思ったので、あんまり精神的なダメージは受けませんでした。

思うに、選評を読んで落ち込むかどうかって、納得できるかどうかですよ。

かなり辛口でも、自分で納得できれば、「ああ、頑張ろう」という気になります。

逆にダメ出しを受けて、その指摘にどうしても納得できない時は、その後数週間ほど言いようのないモヤモヤ感に包まれますが……。

今回は、「ああ、頑張ろう」の方でした。

その話を今すぐ改稿する予定はないですが、注意された部分は次回以降の創作にいかして、読み手を惹きつける作品を目指したいです。

先日旅のエッセイの話を書きましたが、小説以外のコンテストに参加する時って、ドヤ顔ワナビになっている自分がいます。

800字~4,000字だって？

はっはっは、そりゃ朝飯前の文字数だな！

おっといけねえ、つい本気を出して、もう完成しちゃった。

さあ、大量にあるレターパックに詰めて、いっちょ馴染みの郵便局へ出してくるか！

↑↑↑ みたいな。

おそらく前回は、そういうイヤな感じが滲み出ている、それで落選したのでしょう。

おまけに、写真貼りましたからね。

ドヤ顔で投稿して、規定違反で失格。

その上、掲載されている受賞作品を読んでみたら、自分の作品より遥かに素晴らしくて完全敗北。

等々の経験があったので、今年は「謙虚」を心掛けて、ひっそりと送りました。

まあ、そんなドヤ顔ワナビは自分くらいだと思いますが、旅行エッセイは何よりも感性の勝負なので、小手先の技術に走るのはいけません。

というか、小手先の技術に走る前に、応募規定をちゃんと読めという話。

(大事なことから何度も言う)

ワナビ歴が長いからといって、慣れた気分にならないよう、十分に注意しようと思います。

小説家になろうが母体で、今回はこのラノが協賛している、第2回エリュシオンライトノベルコンテスト（なろうコン）。

なんと、なんと。

募集開始から1週間で、エントリー作品の数が、500本を越えたそうです。

公式ホームページ

<http://www.wtrpg9.com/novel/>

いわゆる公募形式ではなく、「なろう作品にキーワードを貼る」という参加方法なので、すでにアップ済みだった作品でチャレンジしている方も多いようです。

それにしあって、1週間で500本はすごい勢い。

これはもう、最終エントリーが何本になるか、楽しみであり怖くもあります。

ところで、ウェブ公開って魅力的ですよ。

多くの人に作品を読んでもらえるって、書き手にとってすごく嬉しいことですし。

ただ自分の場合、最近書いた作品は投稿に使っているし、過去の作品も直して再挑戦する可能性があるんで、ネット上にアップできる作品がないという状態で。

そんなわけなので、投稿とウェブ公開をうまく両立して、どちらもバリバリ頑張っている作者さんは、本当に尊敬してしまいます。

らくだ図書館スペシャルは、ラノベではない（というか小説でもない）から、なろうコンには参加できないだろうしなあ……。

というわけで自分は不参加ですが、最終エントリー数がとても気になるので、今後もチェックしていこうと思います。

なろうのトップページにも宣伝がありますが、「MF ブックス」というレーベルが出来たそうです。

公募はしていないようですが、最近「従来のラノベよりやや大人向け」というレーベルが、少しずつ増えていますよね。

メディアワークスは割と以前からありましたが、富士見ファンタジアのラノベ文芸もそうですし。

自分の主戦場は少年系ラノベですが、実際は20歳前後の主人公が一番書きやすいので、今のこの傾向はありがたいことです。

何度も「キャラの年齢を下げろ」と言われたので、ここ数年は意識して少年系に寄せてましたが、「寄せてる」感覚を持った時点で、本来の自分ではないってことですからね。

もちろん、寄せた故に通過できた例もありますが、寄せたのに落ちてしまった時の無念さは半端じゃなく……。

なんか、もうね。

自分は何のために小説を書いているんだろう？ と。

そこから根本的に考え直すレベルの悔しさですよ。

去年はそういう無念な感覚があったので、この夏は「少年」「少女」「一般」等のギアを入れず、ニュートラルな状態で書きたいことを書いたら、現状かなり納得のいく作品ができました。

書きたいことを書くのって、やっぱり大事ですね。

自分の趣味を押しつけければいい……というものでもないですが、自分の個性や伝えたいことは、仮に不利になったとしても前面に出していこうと思いました。

本日は、翻訳系の賞の紹介を。

D H C 翻訳新人賞

<http://www.edu.dhc.co.jp/newcomer/>

締切りは11月6日（水）で、気になる課題は、HPからダウンロード可能。

翻訳系の賞って海外から参加される方が多いのですが、D H Cは課題図書を購入する必要がないので、かなり参加しやすいのではないのでしょうか。

つい先週要項が発表されたので、自分も張り切って、英文をダウンロードしました。

そして「うわー、長くて難しいなあ」と思いながら注意事項を読んだら、「今回は簡単なので受賞の大チャンス！」みたいなことが書いてあって、地味にションボリしました。

そ、そうですか……。

翻訳家志望者にとっては、この英文って、簡単なレベルなんですね……。

まあでも、今回は初参加だし気軽に……と思ったら、なんと今回が最終回じゃありませんか！

残念です。

翻訳系の新人賞はレアなので、もっと続いて欲しかったなあ。

とにかくそんなわけで、いたばし絵本と締切りが近いですが、11月は翻訳月間ということで頑張ります！

先週から受付が始まったいたばし絵本も、さっそくエントリーを済ませたので、課題絵本が届くのを楽しみに待とうと思います。

ここ数日どうしたんだ？

MF関係の検索キーワードが妙に多いぞ？

と思っていたら、1次結果がウェブ発表されたんですね！

MF Jといえば、通った人にだけメールが来るという特殊な発表だったので、落選を知る過程が他とまったく違うイメージがあったんですが……。

某掲示板を見て疑心暗鬼になり、公式ブログでトドメを刺されても、「いや、メールサーバーの不具合に違いない！」みたいな。(← 経験者)

あと、今回は年齢層が高めだったと聞いてチェックしたら、確かに30代以上の方々も多くいらっしゃいました。

意外です。

意外であると同時に、昭和生まれの自分は、とても励まされます。

いつだったか忘れましたが、MFの通過リストを見たら10代後半や20代前半ばかりで、「ああ、この賞は平成仕様なんだ」と勝手に落ち込んでいたんですが、そんなわけでもないのですね。

いずれにせよ、1次通過された方々は、おめでとうございます！

2次もその次も、このまま通過しますように！

それにしても、ウェブでの通過発表は、やっぱりあった方がいいですよねえ。

タイトルから内容を想像するのも楽しいし、知っている名前を見つけると、一気にテンションが上がりますからね。

今回からの改変(?) みたいですが、1次通過のリアルタイム発表は、今後も続けて欲しいなと思います。

本当に魂の宿った文章を書くと、自分のエネルギーを大量に吸い取られて、書き終わった後へとへと状態になります。

でも、吸い取られた分、その文章には魂が宿っているので、読んだら逆にエネルギーをもらえます。

他の方の作品を読んでいても、「魂が宿っている」と感じる瞬間があって、読み終わった後は創作意欲が猛烈に湧いてきます。

それなら、何をどう書けば、文章に魂を込められるのか？

最近ずっとそれを考えているんですが、一つの答えは、「自分の本心を書く」ことじゃないかなと。

エッセイではなく小説なので、自分の気持ちをそのまま書くわけじゃないですが、それでも過去に書いた作品を見返してみると、「本心の作品」「着飾った作品」って分かれるんですよね。

書いている文章と、自分の気持ちが一致することは、本当に大事です。

シャーマンキング風言えばオーバースウル、エヴァ風言えばシンクロ率100%の状態です。

逆に言うと、自分と作品のシンクロ率が0%だったら、魂の宿った文章なんて書けるわけがなく、単なる文字の寄せ集めになってしまいます。

自分はそう感じるので、やっぱり書きたいことを書こうと、改めて決意した次第です。

執筆中に力尽きるくらい、文章に自分の魂を込める。

口で言うほど簡単じゃないですが、そういう領域に辿り着きたいです。

いたばし国際絵本翻訳大賞。

すでに3回目の挑戦となりますが、今年もまた参加しようと思います。

公式ホームページ

http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/055/055589.html

早くも課題絵本が届いたのですが、一読して「ここどうしよう？」と思ったのは、「Don't」を強調した「Dooooonn't！」という叫びです。

日本語で「ダメエエエ！」って書いたら、まるでエッチなセリフみたいだよ！（違）

……………。

いえ、すみません。

格好つけて翻訳してますが、そういう部分は、どこまでもラノベ脳です。

真面目な話に戻ると、一つ一つの文章は短めで、内容もわかりやすいです。
ある意味、過去3年間の課題の中で、一番絵本らしい絵本かもしれません。

ただ、これを自然に訳すのは、至難の業じゃないでしょうか。

まず第一に、文章がすべて手書き。

大文字を使ったり、下線が引いてあったり、文字サイズが大きくなったりします。

この雰囲気合った文章を日本語で、しかも活字で表現するなんて、ちょっと想像できない感じです。

しかし、参加費を払ってしまった以上、何が何でも応募するしかない！（貧乏人）

とりあえず、「ダメエエエ！」以外に何かないか、知恵を絞って考えてみようと思います。

今日は久しぶりに、おでかけ記事を。
難波宮跡で開催されている、明月祭へ行ってきました。

しかしその前に、デザートの写真の一つ。



ジャジャーン！

左が普通の「マンゴーかき氷」で、右が「超級マンゴーかき氷」。

さすが超級というだけあって、クリスマスツリー状態……（汗）



明月祭は、中国の中秋節を祝うイベントで、中国関係の屋台がたくさんでした。
谷町四丁目にある難波宮跡で、今日明日と開催されています。

そしてここにも、くまモン登場！

最初は空席が目立ったのに、くまモン体操が始まる頃には、会場のイスはほぼ満席。

いやもう。

彼の人気は凄まじいですね。



難波宮跡から出ると、遠方にあの建物が……。

大阪城です。

真下で見るとあんなに立派なのに、ここから見ると意外に小さいです。



谷町四丁目には、NHK大阪放送局があります。

そして、その横の大阪歴史博物館では、「エヴァンゲリオンと日本刀展」を開催中。

エヴァキャラの和服姿って珍しい！

入場はしませんでした。ロンギヌスの槍なども展示されているようです。

そして最後に、オマケ写真。

執筆資料として以前買った、ブタさん貯金箱です。



コインを入れるのは勿体ないので、お腹からアメ玉を入れてみたら、これが心底取り出しにくい……。

今はパソコンの横に飾って、執筆中に眺めております。

そんなこんなで、今日はおでかけ記事でした！

台風も近付いているようなので、明日は執筆に励もうと思います。

歯が痛いいいい！！

とまあ、思わずフォントをいじるほど、猛烈に歯が痛い常木らくだです。

右下の中途半端な親知らずが原因なんですが、通っている歯医者予約が明日の夜しか取れず……。

非常に困ります。

食べるのも痛いし、しゃべるのも痛いし、笑うのも痛いです。

そんなわけで、今日は食事もロクにとらず、家族との会話も極力避けて、うつむき加減で一日を過ごしました。

まあ、健康な状態の時も、そういう生活してるけどねッ！（ダメ人間）

しかしその親知らずが原因で、喉や顎まで深刻に痛いので、歯医者へ行ったら抜かれるんじゃないかとガクブルです。

親知らずの抜歯と胃カメラって、比べたらどっちが苦痛かなあ……（遠い目）

あとついさっき、携帯が変な着信音で鳴ったので「受賞連絡か！？」と思ったら、土砂災害警戒情報でした。

そうね……。

台風も来ているね……。

そんなわけで、明日の夜は歯医者へ行ってきます。

夜も眠れない痛さなので、明日の治療ですぐに治ることを願いつつ、今夜はこれにて失礼します。

ただでさえ歯が猛烈に痛い上に、避難情報のエリアメールが夜中に何度も流れてきて、昨日は寝苦しい一夜でした。

そうそう。

例の親知らずの件ですが、歯医者へ行ったら「じゃあ抜きましょうか」という流れになって、そのまま抜歯されました。

え！？

そんなあっさり！？

親知らずの抜歯ってもっとこう、心の葛藤や苦渋の決断など、ドラマがあると思っていたんですが……。

まあでも、歯医者さんにとっては、日常茶飯事なんでしょうね（汗）

歯を引っこ抜かれる瞬間は、耳の内側からゴリゴリ、ギリギリという音がして、精神的な恐怖が相当でした。

とはいえ、物理的な痛さはなかったもので、麻酔の力は実に偉大だと思います。

さてさて。

今後の経過は気になりますが、山は越えたので、これで執筆作業に戻れます！

この三連休は、初日こそ非常に充実していたものの、昨日と今日は完全にダウンしていたので、創作をしなかった罪悪感がひしひしと……。

とりあえず、血が止まらなくて口の中が苦いですが、この2日間の遅れを取り戻すべく、明日からまた頑張りたいです。

歯が痛い

↓

食事が減る

↓

体力が落ちる

↓

体調を崩す（今ココ）

しかも親知らずの抜歯と同時に、他の箇所にも虫歯が見つかったので、今後も通うことになってしまった……orz

毎週歯医者なんて、バッシングだよ！

でも負けない！

この経験をバネに、バッシバッシ小説を書いちゃうから！

という具合に、つまらない抜歯ギャグを披露しつつ、9月もまもなく下旬になろうとしています。

今月の投稿作業は終わっていて、ガガガ・ルルル・小学館文庫へ投稿済みなので、それが救いといえれば救いでしょうか。

小学館はおよそ通る気がないので、落選フルコースが待ち受けていそうですが、もし名前が載ったらよろしくお願いします。

そして今から、SD用の新作を書かなきゃだ……。

最近1本に時間をかけるようになったので、正直ちょっと微妙ですが、10月半ばまでに何とかしようと思います。

頑張れ、自分ー！

今年もついに、ゆるキャラグランプリが始まりました。

公式ホームページ

<http://yurugp.jp/>

最近のゆるキャラブームについては、あまりの乱立っぷりに眉をひそめる方もいるようですが、ご興味のある方は是非とも！

今年は企業枠ができたので、ポンタカードのポンタくんや、ドコモダケまで出馬しているみたいです。

自分はキャラクター好きなので、もちろん投票にも参加しますが、エントリー票を見ているだけでも楽しめます。

「〇〇は、やはり最初から票を集めているな」

「なに、〇〇がエントリーしていないだって!？」

「今までノーマークだったが、今年の〇〇は要チェックだ」

↑↑↑ みたいなの。

ん、あれ？

これって少し、何かに似てる？

そうだ、通過リストを見る時の気分だ！

「〇〇さんは、やはり通してきたな」

「なに、常連の〇〇さんがいないだって!？」

「初見の名前だが、いきなり3本通過とは、覚えておかなければ」

……そんなディープワナビですが、ゆるキャラグランプリは純粋な気分で、地元の「はにたん」を応援しようと思います。

新作の案がまとまらないので、先に絵本の翻訳を始めるなど。

しかし、小さい女の子の視点で進む絵本なので、言葉づかいにもものすごく苦勞しております。

もうね！

自分はお姉さん萌えだから、幼女は専門外のエリアだよ！

ちなみに今まで書いた自作の中では、13歳の中学生ヒロインが最低年齢で、それが自分にとっては限界でした。

けど真面目な話、子供キャラの言葉づかいを自然に書くのって、一見簡単そうに思えるけど難しくないですか？

「～よ」とか、「～わ」とか多用すると、変にオネエっぽくなるので、なんかちょっと違う感じだし。

「～だね」あたりは自然だけど、そればかりでも、語尾が単調になるんですよね。

そんなわけで、体言止めを取り入れつつ、語尾にバリエーションをつけて、どうにか自然に見えるように訳してみました。

自分のキャラだったら、そこまで考えなくても語尾の処理ができるのに、物語の翻訳は難しいです。

それにしても、翻訳で悩むよりも、まずSD用の新作を……。

いっ、いや、明日から頑張ります！

まだ1か月ちょいあるから、きっと間に合うはずだー！

来月の予定が決まったのですが、所用で東京へ立ち寄るついでに、フィギュアスケートのジャパンオープンを観戦できそうです。

キャッホーイ！

今シーズンの初戦だよ！

ここにもたまに書いてますが、自分はワナビ活動に勝るとも劣らないくらい、スケート観戦が好きだったりします。

細かい振り付けや表情は、テレビで見る方がよくわかりますが、やっぱり会場観戦はたまりません！

その場に漂う空気感、というのでしょうか。

選手の本気さがビシバシと伝わってきて、会場からの帰り道はいつも、「自分も見習おう」って気分になります。

ああ、そうそう。

スケートといえば、浅田真央ちゃんの誕生日が、来週9月25日です。

そしてその日は、常木らくだの誕生日でもありますので、皆様おめでとうのメッセージをよろしく願いします！

……………。

自分でねだるって、どんだけー。

フィギュアスケートの話を装って、実際は自分の誕生日をアピール、みたいな。

そんな寂しいブログですが、ジャパンオープンが楽しみなことは事実なので、執筆も頑張ろうと思います！

いたばし絵本の「Dooooon't！」ですが、「ダメエエエ！」はさすがにアレなので、「ヤ・メ・テ！」と訳してみました。

……………。

似たようなもん？

でも他に訳しようがないよなあ……と思っていたら、『あかん』でええんちゃう？』という知人の言葉。

大阪弁！？

西洋人の女の子の発言なのに！？

「Dooooon't！」⇒ 和訳

「あきまへん！ そないイケズされたら、ホンマたまらんわあ！」

うん。

間違いなく失格だな。

それはまあ冗談として、翻訳は原文が存在するせいか、キャラの言葉遣いにキビシイんですよね……………。

小説だったら自分が作者本人なので、「これが公式だよ」と主張できるのですが、翻訳の場合ちょっとでもズレると、「このキャラはこんな言葉遣いしないよね」って突っ込まれる（汗）

まあ、原文があるおかげで、ネタが沸かなくても作業できるんですが。（← まさに今）

とにかく両方楽しいと思うので、これからも、両方やっっていこうと思います。

翻訳に筆名を使うのは照れくさいので、本名を記入しましたが、今年こそは是非とも通過して欲しいです！

突然ですが、自分の書きたい物を書くって、大切なことだと思いませんか？

どうして大切かというと、書きたい気持ちが強ければ強いほど、作品と自分の「シンクロ率」が上がるからです。

少し前にも言ったけど、最近、本当にそう思うんです。

今って、多くのレーベルが選評をくれることもあり、賞の情報が溢れ返っているじゃないですか。

だからこそ、自分の書きたい物が、ちょっと見えなくなっているなと。

女キャラの視点で書きたいけど、不利らしいから男にしとこう、とか。

この主人公は大学生にしたいけど、賞ウケしないから高校生に変更だ、とか。

そういう「どうしても書きたいこだわり」を手放すたびに、シンクロ率がどんどん下がって、小説を書く楽しさを見失っているんじゃないかなと。

少し前の自分は、そんな状態だったと思うんです。

それはもう、シンクロ率が0%になった、末期段階のアスカみたいな。

いくらアスカが強くても、起動しないエヴァでは、戦えるはずがありませんよね。

そういう前提で自分のワナビ歴を振り返ると、初期の作品の方が総じてシンクロ率は高い気がするので、ちょっとその頃に戻ってみようと考えた次第です。

5年間でスキルは上がっている（と信じたい！）のに、今まで通っていた電撃やGAで落ちてしまったのは、ずばりシンクロ率の低さが原因に違いない、と。

そんなことを考えた、3連休のなかびでした。

今日は、昨日の話題の続きです。

作品のシンクロ率を上げるためには、自分の書きたい物を書くべきだと思いますが、読者の需要を考えるのも大切なことだと思います。

まず自分の書きたい物があって、そこに出版社さんの戦略やニーズを足して、売れる作品と一緒に作り上げていく。

まだ経験はありませんが、それってすごく、建設的な作業だと思います。

だけど、受賞もデビューもしていない段階なのに、自分の書きたいことが書けないっていうのは、ちょっと変なんじゃないかなあーと。

需要という名の強迫観念に縛られて、小説を書くのがちっとも楽しくない。
それどころか、むしろ苦痛にさえ感じられる。

そうやって悩んでいる時、ふとこう思ったんです。
自分はいったい、誰と戦っているんだろう？ と。

リングへ上がる前に、シャドーボクシングで力尽きるような、果てしない空虚さ。

つまり結局、敵は出版社でも読者の需要でもなく、「こうしなきゃ通過できない」という、自分の中の迷いだったというわけです。

その敵を倒したら、流行から外れた作品を書くのも、あんまり怖くなくなりました。

どれだけ弱くても、仮に初戦で敗退しても、リングへ上がる前に負けるよりは、ずっとずっといいですよ
ね。

そんなわけで、自分の書きたい物は、絶対に大切にしようと思いました。

最近のラノベって鈍感系主人公というのか、ヒロインがドキッとすると台詞を言っても、気がつかないケースが多すぎませんか？

「家庭的な女の子が好きなの？ それならアタシも、お弁当作ろうかな」

「え、何だって？」

「な、何でもないわよっ！」

↑↑↑ みたいなの。

この例はベタすぎるにしても、こういうシーンが多すぎて、さすがにちょっと食傷気味というか。

別に流行に逆ギレしているわけじゃなく、読者的な好みとして、自分は真逆のケースの方が好きかもです。

ヒロインの何気ない台詞を深読みして、「〇〇ちゃんって俺のこと好きなのかな？」と、内心ドキドキしている主人公。

だって、その方が感情移入して楽しいし、二人の恋愛を応援したくなるじゃないですか。

なので自分は、鈍感系主人公は苦手だな、と思うわけです。

ここで「だけどそれが流行だし」と言い聞かせて、書きたくない主人公を無理して書くと、昨日の話題のシャドーボクシングになるわけで。

その部分が譲れないなら、敏感な主人公でしか書けない作品を書いて、自分のこだわりを作品で表現しようじゃないか、と。

なかなか実行するのは難しいですが、自分にとってはとても大切なことなので、作品の芯は捨てずに進みたいのです。

先日宣伝した通り、今日は浅田真央ちゃんの誕生日ですが、常木らくだちゃんの誕生日でもあります。

……………。

「ちゃん」付けしても、かわいくねーっつの。

他人に指摘されると傷付くから、あらかじめ言っておく作戦です。

ええ、そうです、自分は弱虫です。

それにしても、投稿を始めた時から、もう5年なんですよー。

最初の頃は、3年で受賞しようと思っていたのに、気がついたら「あれれー？」みたいな。

でも、最初の目標は越えているけど、今一つだけ真剣に思うのは、自分は投稿をやっていて本当によかったということ。

おかげで素敵な仲間に出会えたし、執筆はいわば心の鏡でもあるので、自分の人生と逃げずに向き合えるようになった感じです。

だからこそ、ですかねえ。

「3年で受賞できなかったから、今までの努力は無駄だった」じゃなくて、「素敵な3年だったから、もっともっと続けたい！」と思うんですよ。

もちろん目標はデビューなんですけど、投稿生活も、ぶっちゃけキライじゃないというか。

変かもしれませんが、実際そんな感じなので、今後も細く長く地道に続けていきたいと思います。

これからもよろしくお願いします！

日本ラブストーリー大賞の1次結果と、それから「あと一步」の作品が発表されたということで、公式ホームページを見てきました。

<http://japanlovestory.jp/information>

他社の1次発表はタイトルと筆名だけなので、作品の内容は想像するしかありませんが、日ラブはあらすじと選評が公開される！

というわけで、一通り目を通して見たのですが、どれも面白そうで読んでみたいです。

投稿作品のあらすじを読んでいると、インスピレーションが沸きますよね。
もちろんパクるわけじゃなく、やる気を分けてもらえる感じ。

「これだけ頑張ってる人がいるんだから、自分も絶対にやってやるんだー！」っていうね。

しかし前向きな気分になった後、通過倍率を確認してガクブル。

何なんですか？

応募総数が595作品で、1次通過が18作品って、これは昭和の無理ゲーですか？

1次段階で3%に絞るなんて、嘘だと言ってよバーニィ！

そんな中で、自分の作品が紹介されたら、やっぱり嬉しいものでしょうか。
それとも、受賞が未確定の段階では、紹介されたくないものでしょうか。

日ラブは投稿したことがないし、このラノは参加したけど1次で落選したので、そのあたり実際どうなんだろうなあと。

まあでも見ている人間としては、たくさんやる気がもらえるので、グイグイ頑張ろうと思います。

縁起でもない話をしますが、始まりがあれば、必ず終わりがあるものです。
今はこんなに大好きな小説執筆も、いつの日か、やめる瞬間が訪れるかもしれません。

それで、ちょっと考えてみたんです。
自分が小説執筆をやめるなら、その理由は何だろうなーって。

まず一つ言えるのは、自分は賞の落選を理由に、イヤになってやめることはないであろう、と。

だって、それを理由にやめるなら、もう5回くらいやめてます……（泣）

もちろん、悲しいですけどね。
大切な作品が落選したら、自暴自棄になっちゃいます。

でも、一時的にすごく落ち込んでも、小説を書きたい根本の気持ちは、結局なくならないわけで。

自分の思いを伝えたい。
たくさんの人に知って欲しい。

エッセイではなく小説なので、間接的にキャラへ託すわけですが、根底にその願望があるからこそ、長年ずっと続けている感じです。

なので、自分が小説執筆をやめるとしたら、「伝えたいことが何もなくなった瞬間」かなーと思います。

「ずっとやめたくないけれど、もしやめるなら、それはどういう瞬間だろう？」

自分の執筆理由を見極めるキッカケとして、これを機に、皆様も考えてみてはいかがでしょうか。

パソコンのブルーライトを軽減するという、JINSメガネを、誕生日プレゼントにいただきました。

<メーカーHP>

<http://www.jins-jp.com/>

人生初メガネです！

度は入っていませんが、ワクワクドキドキです！

そうなんです。

自分は執筆大好き&テレビゲーム大好きで、家にいる時は常時PC稼働という生活をしていますが、どういわけか視力がいいという……（汗）

それとは逆に、兄は子供の頃から視力が悪かったので、「お前が視力いいなんて詐欺だ！」と言われてました。

いや、詐欺じゃないよ！

見えるんだから、仕方ないじゃん！

ちなみに、どうして視力がいいか打ち明けると、常に夢見がちな生活を送っていて、目の前の現実世界をあまり見ていないからだと思われます。

妄想は想像力が命だから、目の視力いらないもんね！

余計な前置きが長くなりましたが、例のメガネはなかなか快適なので、執筆中に装着しようと思います。

別に宣伝じゃありませんが、目の痛みに悩まされている方は、一度試されてみてはいかがでしょうか？

日本ラブストーリー大賞の、よくある質問の欄に、こんな文章があるんですよ。

Q. 二人で、一つの作品は駄目なんですか？

A. お二人の合作でもかまいません。どういう分担か、お書き下さい。

二人以上で合作って、マンガならよくあると思いますが、小説では珍しいような気が。でも、誰かと一緒に創作するって、ちょっと面白そうな気もします。

そうだなー。

自分が分業するなら、文章担当がイイナー。

ストーリー作りが好きな方に、プロットをいただいて、ひたすら文章を起こす作業。

まあ実際は、コラボ以前に自分の執筆をしなきゃなので、ちょっと考えてみただけの妄想ですが。

あ、そうだ。

校正係でもいいですね。

自分、文章を読みながら、誤字脱字・誤変換を探すのが大好きなので。

それが趣味って、性格悪い(?) かもしれませんが、その作業が本当に楽しいんです。

それにしても、苦手な作業がストーリー作りで、一番好きな作業が校正って、ワナビとしてはどうなのか……。

それなら作家じゃなくて、校正家を目指したら？ っていう(汗)

まあそういうわけで、本日は「もし分業するなら何をしたいか」という話でした。

執筆中の気分転換に、ちょっと考えてみると、面白いかもしれません。

こんばんは、常木らくせんです。

あっ、間違えました、常木らくだです。

というわけで、ヒーロー文庫は2次落選でした。

でもその作品は、9月末の賞へ送るつもりだったので、これでフリーの状態になったぜえええい！

ってなわけで、印刷してあった原稿を封筒に詰め、郵便局へ猛ダッシュで向かうという、臨時ミッションが緊急発生。

うーん！

いい汗かいたヨ！

……………。

こういう行動って、きっとよくないんだと思いますが、でもやめられないんですよー。

何より、落選する前提で次の計画を立てるって、最初から自分の通過を信じてないってことですもんね。

あ、でも！

自分はこう見えても、すごく前向きな部分もあるんです！

たとえば、自分の受賞を信じて、筆名の名刺を作りましたッ！（渾身のドヤ顔）

いや。

それはちょっと、前向きになるべき箇所を、根本的に間違ってるから。

そんな一人話芸を披露しつつ、今夜はこれにて失礼します。